



## 2025年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年1月31日

上場会社名 株式会社 オートバックスセブン

上場取引所 東

コード番号 9832 URL <https://www.autobacs.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役 社長 (氏名) 堀井 勇吾

問合せ先責任者 (役職名) 経理・財務部長 (氏名) 大木 勝仁 TEL 03-6219-8787

配当支払開始予定日 -

決算補足説明資料作成の有無： 有

決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2025年3月期第3四半期の連結業績（2024年4月1日～2024年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	188,216	4.8	9,945	10.6	10,769	15.7	7,639	△16.1
2024年3月期第3四半期	179,637	0.8	8,991	△8.4	9,311	△5.7	9,106	29.4

(注) 包括利益 2025年3月期第3四半期 7,753百万円 (△13.5%) 2024年3月期第3四半期 8,965百万円 (4.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第3四半期	97.68	-
2024年3月期第3四半期	116.82	-

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年3月期第3四半期	246,069	132,013	53.6	1,679.75
2024年3月期	194,948	129,152	66.1	1,652.71

(参考) 自己資本 2025年3月期第3四半期 131,849百万円 2024年3月期 128,845百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	-	30.00	-	40.00	70.00
2025年3月期	-	30.00	-	-	-
2025年3月期(予想)	-	-	-	30.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

2024年3月期期末配当金の内訳 普通配当 30円00銭 記念配当 10円00銭

### 3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	240,300	4.5	12,000	49.8	12,500	54.4	7,700	21.2	98.10

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更： 無  
新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年3月期3Q	82,050,105株	2024年3月期	82,050,105株
② 期末自己株式数	2025年3月期3Q	3,557,000株	2024年3月期	4,090,227株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2025年3月期3Q	78,207,187株	2024年3月期3Q	77,955,443株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー： 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期の財政状態の概況 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書 .....	6
第3四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(セグメント情報等の注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	9
(重要な後発事象の注記) .....	10

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな回復基調が続きました。一方で、物価上昇による個人消費の低迷が懸念されるなど、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

国内の自動車関連業界の動向といたしましては、一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響により新車販売台数は減少いたしました。中古車登録台数は前年をわずかに上回る水準で推移いたしました。カー用品関連においては、物価上昇の影響もあり依然として厳しい市場環境におかれています。

このような環境下において、当社グループは、お客様にとっての「モビリティライフのインフラ」をグローバルで目指し、2024中期経営計画「Accelerating Towards Excellence」に基づき、「タッチポイントの創出」「商品・ソリューションの開発と供給」「新たな事業ドメインの設定」を戦略骨子とした各種施策を推進しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高1,882億16百万円（前年同期比4.8%増加）、売上総利益658億97百万円（同9.9%増加）、販売費及び一般管理費559億52百万円（同9.7%増加）、営業利益99億45百万円（同10.6%増加）、経常利益107億69百万円（同15.7%増加）、親会社株主に帰属する四半期純利益76億39百万円（同16.1%減少）となりました。なお、前第3四半期連結累計期間ではBMW/MINI正規ディーラー事業を行う連結子会社2社の事業譲渡に伴う特別利益39億71百万円を計上しております。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

なお、中間連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較分析しております。

#### [オートバックス事業]

オートバックス事業の売上高は1,507億2百万円（前年同期比5.6%増加）、セグメント利益は169億44百万円（同12.9%増加）となりました。

国内オートバックスチェーン（フランチャイズ加盟法人店舗を含む）の全業態の売上高は、前年同期比で既存店が4.6%の増加、全店が5.1%の増加となりました。

国内オートバックスチェーンでは、寒波や降雪に伴い、スタッドレスタイヤやタイヤチェーンなどの冬季用品の需要が増加いたしました。また、年末年始の外出需要の増加を背景に、オイルやバッテリーなどのメンテナンス関連商品が伸長し、これらの商品に伴うサービス工賃も好調に推移いたしました。

プライベートブランドについては、自信をもっておすすめできる価値ある商品の開発・販売を推進しております。「AQ.（オートバックスオリジナル）」においては、カー用品に加えて、低価格で高品質なオリジナルピットサービス「AQ.ピットメニュー」の販売も開始いたしました。

車検・整備については、アプリからのピット作業のWeb予約が定着しつつあり、公式アプリからのピット作業予約件数が前年同期比19.7%増加いたしました。車検実施台数は、下期より車検対象車両台数が増加に転じましたが、前年同期比では1.0%減少の約47万4千台となりました。

車販売については、中古車の単価上昇を背景にオークションへの販売が好調に推移した一方で、新車・中古車小売の販売台数は前年を下回りました。これにより、国内オートバックスチェーンにおける総販売台数は前年同期比3.7%減少の約2万2千台、総販売金額は前年同期比7.8%増加の268億40百万円となりました。

国内における出退店は、新規出店が19店舗、退店が3店舗あり、2024年3月末の1,003店舗（内、併設店およびインショップは414店舗）から1,019店舗（内、併設店およびインショップは416店舗）となりました。なお、2025年3月期の期首より併設店およびインショップを含んだ店舗数に変更し記載しております。

海外小売については、フランスにおいて前期に2店舗を閉店した影響で売上が減少いたしました。シンガポールにおいては、COE（車両購入権）の価格上昇に伴い、既存車のメンテナンス需要拡大を取り込み、ピットサービスが好調に推移いたしました。

海外における出退店は、新規出店が35店舗、退店が1店舗あり、2024年3月末の109店舗から143店舗となりました。

[コンシューマ事業]

コンシューマ事業における売上高は200億18百万円（前年同期比6.6%増加）、セグメント損失は8億27百万円（前年同期は9億42百万円のセグメント損失）となりました。

ディーラーにおいては、2024年10月1日付で、当社の連結子会社である株式会社オートバックス・ディーラーグループ・ホールディングスがHonda正規ディーラーを運営する会社を連結子会社化いたしました。これにより、同社が運営する正規ディーラーは、Audi、BYDおよびHondaの3ブランドとなりました。加えて、2024年10月1日付で、電気設備工事・施工・管理を行う会社を連結子会社化いたしました。なお、前期にBMW/MINI正規ディーラー事業を行う子会社2社を事業譲渡しております。

車買取・販売においては、2024年10月に車買取・販売店「オートバックスカーズ」初の大型店「オートバックスカーズかしわ大井」をオープンいたしました。また、2024年8月30日付で、自社ローン型中古車販売事業を行う会社を連結子会社化いたしました。

モビリティライフ情報サービス「MOBILA」においては、日本全国の観光・イベント・飲食店情報、桜の開花や紅葉、イルミネーション情報などリアルタイムの季節情報を地図上に画像付きで表示できる「カーライフMAP」機能を新たに追加いたしました。

また、車両のメンテナンス需要を背景に、車両メンテナンスに特化した業態「AUTO IN車検・タイヤセンター」を運営する子会社が好調に推移したことに加え、社用車のメンテナンスやカー用品などの法人一括払いが可能となる「オートバックス法人会員制度」への加入件数が順調に増加いたしました。

[ホールセール事業]

ホールセール事業における売上高は272億35百万円（前年同期比2.9%減少）、セグメント利益は4億78百万円（同25.5%減少）となりました。

降雪や車両のメンテナンス需要の増加を背景に、エンジンオイル等の卸売を行う子会社およびホイールの卸売を行う子会社が堅調に推移いたしました。また、2024年12月より、全国のセブン-イレブン店舗にて、プライベートブランド「AQ.」の展開を開始し、クルマでの来店が多い幹線道路沿いの店舗を中心に、すぐに使えるカー用品を販売しております。加えて、ガレージライフスタイルブランド「GORDON MILLER」の車両レーベルである「GORDON MILLER MOTORS」より、オートバックス誕生50周年記念特別仕様車「GMLVAN C-01 Limited Edition」を台数限定で販売開始いたしました。

海外卸売においては、国内からの輸出取引が大幅に減少し、売上が減少いたしました。マレーシアにおいては、オートライズドディーラー認定店が増加いたしました。オーストラリアにおいては、インフレや金利上昇を背景に、消費者の購買意欲が低下したことなどにより売上が減少いたしました。中国においては、日本国内への輸出が拡大し、売上が増加いたしました。

[拡張事業]

拡張事業における売上高は68億82百万円（前年同期比11.8%増加）、セグメント利益は4億8百万円（同82.2%増加）となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

財政状態は、次のとおりであります。

当第3四半期連結会計期間末の資産につきましては、前連結会計年度末に比べ511億20百万円増加し、2,460億69百万円となりました。主に受取手形及び売掛金、未収入金および商品が増加したことなどによるものです。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ482億59百万円増加し、1,140億56百万円となりました。主に支払手形及び買掛金、長期借入金および未払金が増加したことなどによるものです。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ28億60百万円増加し、1,320億13百万円となりました。主に親会社株主に帰属する四半期純利益および株式交換に伴う自己株式の処分による増加があった一方、利益剰余金の配当による減少などによるものです。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

### (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	31,297	33,388
受取手形及び売掛金	22,383	39,672
商品	22,635	28,279
未収入金	26,047	36,576
その他	9,859	12,951
貸倒引当金	△31	△71
流動資産合計	112,191	150,797
固定資産		
有形固定資産		
土地	24,576	29,072
その他(純額)	23,676	27,675
有形固定資産合計	48,252	56,747
無形固定資産		
のれん	1,080	3,929
その他	6,683	7,159
無形固定資産合計	7,763	11,089
投資その他の資産		
差入保証金	11,638	12,015
その他	15,116	15,447
貸倒引当金	△13	△27
投資その他の資産合計	26,741	27,435
固定資産合計	82,757	95,272
資産合計	194,948	246,069
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	22,050	38,307
短期借入金	11	6,839
未払金	15,200	22,734
未払法人税等	2,109	1,655
その他	9,612	16,953
流動負債合計	48,984	86,490
固定負債		
社債	—	254
長期借入金	6,023	16,328
引当金	7	7
退職給付に係る負債	256	271
資産除去債務	2,691	3,394
その他	7,832	7,309
固定負債合計	16,812	27,565
負債合計	65,796	114,056

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	33,998	33,998
資本剰余金	34,218	34,138
利益剰余金	63,670	65,753
自己株式	△6,970	△6,060
株主資本合計	124,917	127,830
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,124	1,997
為替換算調整勘定	1,803	2,020
その他の包括利益累計額合計	3,928	4,018
非支配株主持分	307	163
純資産合計	129,152	132,013
負債純資産合計	194,948	246,069

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
売上高	179,637	188,216
売上原価	119,660	122,318
売上総利益	59,977	65,897
販売費及び一般管理費	50,985	55,952
営業利益	8,991	9,945
営業外収益		
受取利息	67	84
受取配当金	119	133
持分法による投資利益	387	612
情報機器賃貸料	564	471
その他	776	771
営業外収益合計	1,915	2,074
営業外費用		
支払利息	53	95
情報機器賃貸費用	1,149	611
固定資産除却損	39	39
その他	353	503
営業外費用合計	1,596	1,249
経常利益	9,311	10,769
特別利益		
事業譲渡益	3,971	—
負ののれん発生益	—	1,030
特別利益合計	3,971	1,030
特別損失		
減損損失	90	74
段階取得に係る差損	—	132
特別損失合計	90	207
税金等調整前四半期純利益	13,192	11,592
法人税、住民税及び事業税	3,969	3,117
法人税等調整額	106	811
法人税等合計	4,076	3,929
四半期純利益	9,116	7,663
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	9,106	7,639
非支配株主に帰属する四半期純利益	9	23
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△449	△126
為替換算調整勘定	256	150
持分法適用会社に対する持分相当額	42	66
その他の包括利益合計	△150	90
四半期包括利益	8,965	7,753
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	8,941	7,729
非支配株主に係る四半期包括利益	24	24



(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額 (注2)
	オートバ ックス事業	コンシュー マ事業	ホールセー ル事業	拡張事業	合計		
売上高							
顧客との契約から生 じる収益	138,718	18,670	19,402	1,008	177,799	—	177,799
その他の収益	26	—	—	1,811	1,837	—	1,837
外部顧客への売上高	138,745	18,670	19,402	2,819	179,637	—	179,637
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,948	104	8,643	3,335	16,031	△16,031	—
計	142,693	18,774	28,046	6,155	195,669	△16,031	179,637
セグメント利益又は 損失(△)	15,014	△942	642	223	14,938	△5,946	8,991

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△5,946百万円は各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主にコーポレートの一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

記載すべき重要な事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額 (注2)
	オートバ ックス事業	コンシュー マ事業	ホールセー ル事業	拡張事業	合計		
売上高							
顧客との契約から生 じる収益	146,797	19,865	18,579	1,101	186,343	—	186,343
その他の収益	—	—	—	1,873	1,873	—	1,873
外部顧客への売上高	146,797	19,865	18,579	2,974	188,216	—	188,216
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,904	153	8,656	3,907	16,622	△16,622	—
計	150,702	20,018	27,235	6,882	204,839	△16,622	188,216
セグメント利益又は 損失(△)	16,944	△827	478	408	17,003	△7,058	9,945

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△7,058百万円は各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主にコーポレートの一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は、2024年5月に発表した2024中期経営計画「Accelerating Towards Excellence」において、お客様にとっての「モビリティライフのインフラ」をグローバルで目指すことを新たな方向性に掲げ、当社が最も得意とする小売りと卸売りの2軸に集中し強化する体制への変更を進めております。

新たな方向性に沿った取り組みを速やかに開始し戦略実行のスピードアップを図るために、中間連結会計期間より、従来、「国内オートバックス事業」、「海外事業」、「ディーラー・BtoB・オンラインアライアンス事業」および「その他の事業」に区分したセグメントを、小売りと卸売りを軸とした報告セグメントに変更いたしました。

国内外のオートバックス店舗の小売りやオートバックス店舗への卸売りをを行う「オートバックス事業」、オートバックス事業以外的小売りとして、カー用品のネット販売や新車および中古車の買取・販売を行う「コンシューマ事業」、オートバックス事業以外卸売りを、ライフスタイルブランドをはじめとするプライベートブランド等を卸売りする「ホールセール事業」およびファイナンス、物件・立地開発、EVソリューション等の周辺事業を行う「拡張事業」の4区分に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「コンシューマ事業」セグメントにおいて、オトロンカーズ株式会社およびPCTホールディングス株式会社の株式を新たに取得したことにより、連結の範囲に含めております。当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間において、それぞれ2,127百万円、785百万円であります。

(重要な負ののれん発生益)

「オートバックス事業」セグメントにおいて、持分法適用関連会社であった株式会社ピューマの株式を追加取得したことにより、連結の範囲に含めております。当該事象による負ののれん発生益の計上額は、当第3四半期連結累計期間において461百万円であります。

「コンシューマ事業」セグメントにおいて、株式会社東葛ホールディングスの株式を新たに取得したことにより、連結の範囲に含めております。当該事象による負ののれん発生益の計上額は、当第3四半期連結累計期間において568百万円であります。

なお、負ののれん発生益は特別利益のため、上記セグメント利益又は損失(△)には含まれておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
減価償却費	3,736百万円	4,158百万円
のれんの償却額	242	256

(重要な後発事象の注記)

取得による企業結合

当社は、2024年11月28日開催の取締役会において、九州エリアを中心にタイヤ専門店「ビーライン」を73店舗(FC含む)展開する株式会社ビーライン(以下、「ビーライン」)の持株会社であるシー・シックス・ツー・ホールディングス株式会社(以下、「同社」)の全株式を取得し、完全子会社化することについて決議し、2025年1月29日にて全株式を取得し、完全子会社化いたしました。

また、ビーラインも含めた同社の子会社2社について当社の連結子会社となりました。

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称：シー・シックス・ツー・ホールディングス株式会社

事業の内容：自動車用タイヤおよびホイール販売事業を行うビーライングループの持株会社

(2) 企業結合を行った主な理由

当社グループは、「社会の交通の安全とお客様の豊かな人生の実現」をパーパスに掲げ、人とクルマが共存し続けられるサステナブルな社会の実現を目指しております。2024年5月には、長期的かつ持続的な企業価値向上を目指して、さらに加速度的な成長を実現すべく、2024中期経営計画「Accelerating Towards Excellence」を発表いたしました。

本取引は、同中期経営計画の戦略の一つである「モビリティライフを支え続けるタッチポイントの創出」における重点施策「出店を含む新規拠点・チャネルの拡大(100拠点)」の一環として実施するものです。ビーラインは1999年の創業以来、九州エリアを中心に小売店舗網を展開しており、タイヤ専門店として地域のお客様のニーズに応え成長を続けております。ビーラインが当社グループに加わることで、重要な事業ドメインとしているタイヤ販売事業の競争力強化に資すると判断いたしました。

当社グループは、今後もさまざまな事業を通じてお客様の安全・安心と、利便性向上に取り組み続けるとともに、環境・社会課題解決の一端を担い、自動車業界のサステナブルな発展に寄与してまいります。

(3) 企業結合日

2025年1月29日

(4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

(5) 結合後企業の名称

変更はありません。

(6) 取得した議決権比率

100%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したことによるものです。

2. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	5,650百万円
取得原価		5,650百万円

3. 主要な取得関連費用の内容及び金額

現時点では確定していません。

4. 発生するのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

現時点では確定していません。

5. 企業結合日に受け入れる資産及び引き受ける負債の額並びにその主な内訳

現時点では確定していません。